



## 2018 年度秋季大会実施報告

大会・企画委員会, LOC

### 秋季大会実施報告 (大会・企画委員会)

2018 年度秋季大会は、郡山市のビッグパレットふくしまにおいて、10月9日(火)～11日(木)に開催され、751名(会員619名,非会員等132名)の参加がありました。プログラム確定後の講演発表数は口頭242件、ポスター248件の合計490件で、このうち口頭発表1件、ポスター発表2件がキャンセルされました。そのほかに、日本地震学会賞1名、若手学術奨励賞受賞者3名、技術開発賞1団体による記念講演がありました。

今年度の秋季大会では「伝える・伝わる地震学」「地震波・地震動の理論と解析50年」「2011年東北地方太平洋沖地震の地震学」「地震活動とその物理」の4件の特別セッション、「大阪府北部の地震」「2018年9月6日北海道胆振地方中東部の地震」の2件の緊急セッションが開催され、大変活発な議論がなされました。

昨年度同様、講演申し込み、予稿原稿アップロード、事前参加登録と参加登録料及び投稿料の支払いは、ウェブサイト上で受け付けました。事前参加登録済みかつ年会費納入済みの会員には、予稿集と共に名札と領収書を事前送付し、当日は大会受付を通らずに入場できるようにしました。また、講演予稿集は電子版のみとし、事前参加登録をして頂いた会員には、予稿集ダウンロードのためのURLとパスワードをプログラム公開時期にあわせて連絡しました。当日は新聞形式のA3版プログラムを配布いたしました。

今年度も、大会1日目の午後に、日本地震学会賞、技術開発賞、若手学術奨励賞の受賞者による記念講演を設けました。大会3日間ともに4会場同時並行で口頭発表のセッション(受賞記念講演を除く)を行い、大会初日と2日目の夕方、3日目の午前にはポスター発表のコアタイムを設けました。なお、通常的口頭発表の時間は、原則として1件あたり15分(講演12分、質疑3分)とし、特別セッション、緊急セッションにおける招待講演は1件あたり20分(講演17分、質疑3分)としました。

今年度も、学生による優れた研究発表を奨励し、研究発表技術の向上を目的とした「学生優秀発表賞」の審査をしました。口頭発表とポスター発表のどちらも対象です。今年度の審査員には理事、代議員、大会・企画委員会委員から29名が選出され、のべ76件の発表を審査しました。選

考結果と受賞者については、本ニュースレター NL-5-7～10 ページに発表されています。

秋季大会の準備、運営面では、つくば地域の地震学会員からなる LOC の皆様に全面的にお世話になりました。LOC の皆様の献身的なご尽力により、郡山大会が円滑に運営されたことに、大会・企画委員会から心よりお礼を申し上げます。

さて、来年度の秋季大会は京都市の京都大学において、日本地震工学会との合同大会として、2019年9月16日(月)～20日(金)の日程で開催される予定です。LOC は京都の皆様にお引き受けいただいています。今年度に引き続き、会員の皆様の積極的な投稿・参加を期待しております。

最後になりましたが、各セッションの座長および学生優秀発表賞の審査員をお引き受けくださった皆様のご協力に感謝申し上げます。

### LOC からの報告

#### 1. 秋季大会

2018 年度秋季大会は、つくば市所在の5研究機関・1大学で合同 LOC\* を組織し、大会の運営にあたりました。本来であればつくば大会となるはずですが、我々はつくばから北に150kmほど離れた福島県郡山市を開催の地に選びました。なぜ郡山でやることになったのか、事情を知らないままの会員もいらっしゃると思いますので、郡山開催に至った経緯について最初に簡単に触れます。LOC を引き受けることになった開催の2年ほど前に遡りますが、郡山コンベンションビューローから学会事務局に学会開催誘致のお話があったそうです。当時は当然のごとくつくば開催を念頭に置いていましたが、一度お話を伺ってみては？と学会事務局から助言をいただいたのがきっかけです。LOC にとっても予想外の場所でしたのであまり真剣には考えていませんでしたが、これまで福島県で地震学会を開催した記憶が無く(これはその後、事務局資料により本当に初であったことを確認)、学会としても東日本大震災被災地域である福島県で地震学会を開催する意義は大きいのではないかと考えるようになりました。その後、郡山コンベンションビューローの担当者と話をし、実際に現地にも赴き、ぜひ福島で地震学会を開催したいとの思いが強くなりました。つくばから離れた場所での開催には不安も大きかったですが、郡山コンベンションビューローのサポートも得ながら、郡山大会の実現となりました。

大会会場となったビッグパレットふくしまは、コンサートやスポーツ興行、展示会、会議など様々なイベントで使

\* 合同 LOC: 防災科学技術研究所, 産業技術総合研究所, 気象研究所, 建築研究所, 国土地理院, 筑波大学で組織。委員長は産業技術総合研究所 桑原保人。

用されているコンベンション施設です。東日本大震災後には避難所としても利用され、現在でも、隣接する区域（かつて駐車場だったエリア）に仮設住宅が建ち並んでいるのにお気づきの方もいたかもしれません。ちょうど今年は開館20周年の節目の年にあたりました。立派な施設で、会議室も多くあり、下見の段階で地震学会の開催は可能と判断できました。大会では受付を中心にA、B会場、ポスター・団体展示会場、クローク、お弁当販売所、LOC控室を1階に配置しました。C会場とD会場は3階と4階にそれぞれ分散してしまいましたが、全体的にコンパクトにまとめることができたので、会場間の移動はそれほど苦にならずに済んだと思います。

今回多くの方から好評を頂いたのが、ポスター・団体展示会場です。とても広い場所を借りることができたため、ポスターパネルは横長にすることができ、さらに通路幅として5m確保できました。コアタイムでも窮屈に感じずに議論いただけたのではないかと思います。また、特別セッション、緊急セッションのポスターは全て3日間掲示できましたし、休憩スペースも置くことができました。12団体にご出展いただいた団体展示は、参加者の目に入りやすいように、会場入り口付近に配置しました。残念だったのは、天井照明の配置の関係で、一部のポスター列が暗くなってしまったことです。急遽パネル上部に簡易照明を取り付けることにしましたが、それでも十分ではなかったと思います。該当パネルにあたってしまった皆様にはこの場を借りてお詫びいたします。また、一部の口頭発表会場でプロジェクターの調子が悪くなり、発表に支障が出てしまいました。講演者そして聴講されていた皆様、対応に苦慮された座長の皆様には大変ご迷惑をおかけしましたことをあわせてお詫びいたします。

ビッグパレットふくしまでの開催でLOCを最後まで悩ませることになったのが、昼食についてです。周辺に食堂が少ないためお弁当販売を行うことにしましたが、売れ残った場合は買取りが必要なため、あまり多くは注文できません。一方で少なすぎるとお昼を食べそこねてしまう参加者が出かねませんので、販売個数をなかなか決断できませんでした。しかし地元のお弁当屋さん相談している中で、駅弁を販売するのはどうでしょうか？との提案がありました。駅弁であれば余ったものは駅などで販売できるので、買取りの心配は無いとのことでした。初日100個、2日目以降は150個の駅弁を持ってきてもらいました。駅弁は見栄えも良く、好評だったようで、全て完売しました。結果的にはもう少し頼んでも良かったことになりませんが、お弁当屋さんにも迷惑を掛けずに済み、手頃な個数だったと思います。周辺に食堂が少ない場所で大会を開催する際の参考にしていただければと思います。

大会2日目の夜には、郡山ホテルビューアネックスにおいて懇親会を行いました。参加人数は173名（一般158名、学生13名、子供2名）でした。郡山市長にもご臨席を賜り、ご挨拶の中で更なる地震学の発展を期待するとの激励のお言葉をいただきました。また、会長・LOC委員長・市長には鏡開きで会を盛り上げていただきました。ソースカツ丼や地酒をはじめとする福島の名物をご堪能いただけたことと思います。

今回のLOCはつくば所在の大学・研究機関合同で務めたこともあり、過去の大会に比べてマンパワーは十分揃っていました。その分安心してしまい、ゆっくり準備しすぎたという反省があります。今思い出すと、直前1週間のラストスパートはなかなかスリリングなものでした。しかし、このスリルを共有したことでLOC間の結束が強まり、結果としてうまく機能することに繋がったのではないかと分析しています（結果論ならびに前向きに捉えすぎのため、くれぐれも今後の参考にはしないでください）。最後になりましたが、大きなトラブルもなく大会を無事終えることができたのは、郡山コンベンションビューローおよびビッグパレットふくしまの皆様、会場設営を担っていただいた株式会社アール・ケー・ビー、託児を引き受けてくださったNPO法人ココネット・ママ、アルバイトとして大活躍してくれた日本大学工学部（郡山）の学生さんなど、ご協力いただいた多くの方々のおかげです。LOC一同、心から感謝しております。ありがとうございました。

## 2. 一般公開セミナー

秋季大会に先立つ10月8日（月・祝）には、郡山市中央公民館において一般公開イベントを行いました。午前中には、親子向けと学校教員向けの「地震の教室」を開催し、20余名の参加を頂きました。親子向け教室では、簡易地震計の製作を通して地震計の原理を理解するとともに、工作や測定の面白さを体験してもらいました。教員向けの教室では、地震に関する授業を行う際に役立つ教材の展示、実演を実施しつつ、来場いただいた教員の方々と意見交換を行いました。午後に開催した一般公開セミナーには約70名の方にご来場頂きました。東日本大震災の被災地である郡山市での開催を意識し、最新の地震・津波研究の成果の解説に加え、防災の研究者ならびに自治体担当者から、自助・共助に資する様々な取り組みを紹介して頂きました。各講演後の活発な質疑や会場アンケート記載内容から、来場頂いた皆様にはご満足いただいたものと考えています。一方で、参加者数が少ないことに対するお叱りのコメントも複数頂きました。チラシ配布のみではなく、開催場所に合わせた広報のあり方を検討すべきであったことは、大きな反省点です。

なお、これらのイベントは郡山市および郡山市教育委員会のご後援、科学研究費補助金の助成を頂きました。講師の皆様をはじめ、ご協力頂いた関係の皆様には深く御礼申し上げます。

#### 大会プログラムの修正（大会・企画委員会）

○発表のキャンセル

S13-01 近年の近畿地方の地殻活動異常—2018年大阪府北部の地震の意味—

佃為成（元東大地震研）

S22-P04 非定常地殻変動の把握を目指した A-0-A 方式による海底水圧計ドリフト成分補正の試み

# 西間木佑衣・太田雄策・日野亮太・鈴木秀市・佐藤真樹子（東北大理）・梶川宏明・小島時彦（産総研）

S23-P28 Signals in Transition from Deformation to Failure

#Miki Yamamoto, Takane Hori, Osamu Kuwano, Hide Sakaguchi (JAMSTEC)